

機能毎の病床の状況について

病院名:独立行政法人国立病院機構やまと精神医療センター 医療圏:西和

2. 機能毎の病床の状況について

※H28年度の列は、別紙1－3「H28年度病床数一覧」の数値を記入してください。

※R7年度、R8年度（2026年度）の列は、今年度の病床機能報告及び様式2の数値を記入してください。

			(a)			(単位:床)	
			＜H28年度＞ 許可病床数	＜R7年度＞ 許可病床数	うち、最大使用 病床数 (注1)	(b)	(b-a)
						将来 (R8/2026年度) 病床数	H28年度からの 増減 (自動計算)
一 般 病 床 ・ 療 養 病 床	高度急性期		0床	0床	0床	→ <	

※ 用語の定義は、病床機能報告と同様です。

(注1)最大使用病床数
・1年間(R6.4.1～R7.3.31)に最も多く入院患者を収容した時点で使用した病床数のことです。

令和7年度 地域医療構想における具体的対応方針

1. 基本情報

病院名：独立行政法人国立病院機構やまと精神医療センター

医療圏：西和

2. 地域医療構想の実現に向けた自院の取組について

(1) これまでの地域医療構想や昨今の受領動向の変化、2040年頃を見据えた新たな地域医療構想の方向性を踏まえ、自院が地域で担う役割等について（現状と今後の方向性）

当院は、精神病床183床と一般病床（重症心身障害）100床を有しており、国立病院機構では近畿管内で唯一の精神医療専門病院である。診療機能としては、精神科救急、結核等の身体合併症、高齢期精神障害及び認知症、精神科デイケア、訪問看護ステーション、強度行動障害、医療観察法に基づく精神医療の他、一般医療では統合失調症、躁うつ病、神経症、認知症、心身症、発達障害等、幅広い診療を提供している。

精神科救急については、奈良県の精神科医療システムの輪番制に参加し、一次（初期）及び二次救急医療施設として地域からの患者受け入れを積極的に行うとともに、その他の患者についても二次医療圏に留まることなく県内全域から受け入れている。

重症心身障害児（者）病棟では、強度行動障害を伴ういわゆる「動く重心」の患者の医療と療育を行っており、県内外を問わず広く患者を受け入れている。
これからも行政及び介護福祉等関係機関と連携し、待機患者の解消に努めるとともに、短期入所・通所事業により在宅医療の推進に努めていく。

当院が地域で担う役割分担としては、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて、一般医療を提供する医療機関、退院後の後方支援となる介護福祉施設、社会生活を支援する行政との連携を強化し、地域医療構想の実現に寄与する。そのための地域医療連携機能の一層の強化を図る。また、今後も国立病院機構が担うセーフティネット医療の充実を図るための体制をしっかりと維持していく。

連携推進などの取組方針としては、当院が推進している地域移行・地域定着を目的とし、院長をはじめとする幹部職員による行政機関への訪問や、地域の医療従事者等を対象とした研修会等を通して職種を問わず顔の見える関係を築き、「身近で頼りになる病院」「困った時に相談しやすい病院」を目指して地域医療に貢献していく。

（２）今後、増加が見込まれる高齢者救急への対応について

当院は精神医療の専門病院であるため必ずしも高齢者に限った話ではないが、現状行っている精神科救急を引き続き維持していく。

（３）今後、増加が見込まれる在宅医療需要への対応について

※提供体制強化や体制整備の予定等ありましたら合わせてご記載ください

現時点で在宅医療体制の整備予定はなし。

（４）今後の医療従事者の確保や医療提供の維持に向けた方策、検討の状況について

※医療ＤＸ、タスクシフト・シェア等の取組状況がありましたら合わせてご記載ください

女性医師の妊娠・出産や男性医師も含めた育休取得等により宿日直免除となる医師が現状でも複数名発生しており、今後更にこの傾向は増加すると思われる。その対策として医師派遣業者と契約を締結し、外部からの派遣を導入するなどして他の医師の負担を抑え、離職防止に努める。また、退職や医局人事による転勤の際に医師不足とならぬよう、大学医局との情報共有を密に行い、医師確保に努めていく。

看護師については現状では人員不足による大きな問題はないが、入院基本料の施設基準や障害福祉サービスにおける配置基準を下回ることのないよう、日頃から今後の退職の意向等を把握して計画的な人員確保に努めていく。また、患者や家族への各種説明動画を新たに制作することで医療ＤＸを推進し、これまで要していた時間を削減することで職員の負担軽減を図っていく。

3. 各領域の対応状況について

※以下[1]～[15]の領域の今後の方向性について記入してください。
※選択肢については、あてはまるものにチェックをつけてください。

[1]がん

[1-1]当該領域について対応しているか？

[1-2]手術の実施

—

[1-3]化学療法の実施

—

[1-4]放射線治療の実施

—

[1-5]拠点病院等の指定

指定されていない

[1-6]特記事項

—

[2]心筋梗塞等の心血管疾患

[2-1]当該領域について対応しているか？

—

[2-2]24時間心血管疾患の急性期医療の実施

—

[2-3]緊急心臓カテーテル検査及び治療の24時間365日実施

—

[2-4]経皮的冠動脈形成術もしくは経皮的冠動脈ステント留置術の実施

—

[2-5]心疾患に対する外科手術の実施

—

[2-6]冠動脈バイパス手術の実施

—

[2-7]急性大動脈解離の手術の実施

—

[2-8]大動脈瘤手術の実施

—

[2-9]心血管疾患等への早期リハビリ

—

[2-10]特記事項

[3]脳卒中等の脳疾患

[3-1]当該領域について対応しているか？

—

[3-2]脳梗塞に対するt-PAによる脳血栓溶解療法の実施

—

[3-3]脳梗塞に対する脳血管内治療(経皮的脳血栓回収術等)の実施

—

[3-4]脳出血（くも膜下出血を含む）への対応

—

[3-5]くも膜下出血に対する脳動脈クリッピング術

—

[3-6]くも膜下出血に対するコイル塞栓術

—

[3-7]脳出血に対する開頭血腫除去術

—

[3-8]脳血管疾患等への早期リハビリ

—

[3-9]特記事項

[4]救急医療

[4-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[4-2]救急告示病院の指定を受けているか？

受けていない

[4-3]大腿骨骨折への対応

[4-4]病院群輪番制への参加

参加している

[4-5]小児科病院二次輪番体制への参加

参加していない

[4-6]特記事項

奈良県の精神科救急システムに参加し、輪番制での緊急の外来及び入院が必要な患者に対する一次（初期）救急並びに二次救急医療施設としての役割を担っていく。

[5]リハビリ

[5-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[5-2]回復期リハビリ病棟入院料届出の有無

無し

[5-3]上記が有りの場合、届出病床数

—

[5-4]訪問リハビリの実施

実施していない

[5-5]通所リハビリの実施

実施している

[5-6]今後の方向性

精神科デイケアの取り組みを継続し、在宅患者の社会参加とQOLの向上を図る。

[6]在宅医療

[6-1]当該領域について対応しているか？

※ここで言う在宅医療は「在宅医療の提供」「他医療機関等との連携」「後方支援」を含む概念とします。

[6-2]在宅療養支援病院の届出の有無

無し

[6-3]在宅療養後方支援病院の届出の有無

無し

[6-4]特記事項

—

[7]訪問看護

[7-1]病院看護師が当該領域について対応しているか？

対応している

[7-2]同一法人内に訪問看護ステーションをもっているか？

ある

[7-3]上記でありの場合、その名称

コアラ訪問看護ステーション

[7-4]特記事項

精神科訪問看護に特化した訪問看護ステーションとして、患者とその家族が家庭や地域社会の中で安心して日常生活を継続できるよう専門スタッフによる相談と支援をより一層推進する。また、患者の高齢化に伴う在宅医療のニーズ増加に対応するための体制整備と充実強化に取り組む。

[8] A C P（アドバンス・ケア・プランニング）への取組

[8-1]「適切な意思決定支援に関する指針」（「適切な看取りに対する指針」）について定めている

[8-2]特記事項

一昨年度から重症心身障害児（者）を対象とした A C P に取り組んでいる。

[9]小児医療

[9-1]当該領域について対応しているか？

[9-2]小児入院医療管理料の算定

—

[9-3]新生児特定集中治療室管理料の算定

—

[9-4]医療的ケア児を受け入れている

—

[9-5]特記事項

—

[10]周産期医療

[10-1]当該領域について対応しているか？

[10-2]分娩の取扱い

—

[10-3]ハイリスク分娩管理加算の算定

—

[10-4]特記事項

—

[11]災害医療

[11-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[11-2]災害拠点病院の指定を受けているか？

受けていない

[11-3]DMAT指定病院の指定を受けているか？

受けていない

[11-4]E M I S（広域災害救急医療情報システム）への参加

参加している

[11-5]特記事項

現在は奈良ローカルDPAT（災害派遣精神医療チーム）を1チーム編成しており、災害時には奈良県からの要請に基づき派遣する体制をとっている。また、精神科医療の中核的機関として役割を担っている当院と奈良県立医科大学附属病院、県精神科病院協会等の関係機関との連絡体制を確立する。また、引き続き奈良県看護協会における災害看護委員会活動への参加、災害支援ナースの養成にも注力していく。

[12]へき地医療

[12-1]当該領域について対応しているか？

[12-2]へき地医療拠点病院の指定を受けているか？

—

[12-3]特記事項

—

[13]医師の研修・派遣機能（臨床研修の実施等を含む広域的な医師派遣の拠点としての機能）

[13-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[13-2]基幹型臨床研修病院の指定を受けているか？

受けていない

[13-3]協力型臨床研修病院の指定を受けているか？

受けている

[13-4]臨床研修協力施設であるか？

該当しない

[13-5]専門研修の基幹施設であるか？

該当する

[13-6]専門研修の連携施設であるか？

該当する

[13-7]特記事項

新専門医研修制度において精神科専門医研修基幹施設として指定されており、当院を含む精神科病院3施設と総合病院2施設との連携の下、引き続き専門医取得の研修を継続する。

[14]医師の働き方改革

[14-1]医師の宿日直許可の取得状況

取得済み

[14-2]上記で一部の場合、その範囲

取得済み

[14-3]特記事項

勤務医の負担軽減のため、土日祝の輪番日の宿日直について医師派遣業者との契約による外部委託化を計画している。

[15]看護職員の研修機能

[15-1]特定行為研修の指定研修機関の指定申請予定はあるか？

ない

[15-2]特定行為研修の協力施設の申請予定はあるか？

ある

[15-3]特記事項

大阪府と兵庫県下の病院の精神科領域に関連する協力施設として申請済。